

特集

# 日本で始まった 「電話リレーサービス」

7月1日10時30分、コミュニケーションの歴史に新しい1ページ  
が加わった。

「ワトソン君、用事がある、ちょっと来てくれたまえ」というグラハ  
ム・ベルの声から始まった電話の歴史は、約150年を経て、聴  
覚障害者、難聴者、発話困難者がいつでも自由に電話が使える  
ようになった。

サービス名は「電話リレーサービス」。

初めての電話リレーサービスを使った記念通話を紹介しよう。  
武田総務大臣と、3歳で失聴、米大学に留学経験のある福祉  
関係で働く川俣さんによるものだ。



オンラインで行われた開始式典。画面右に要約字幕と手話通訳、画面左はスマホのイメージ

武田大臣:もしまし、これでいいのかな……。

川俣さん:初めまして、川俣です。電話リレーサービスが始まり、喜んでます。

大臣は肉声で話し、川俣さんは手話で話す映像がオンライン画面上に出ている。

この二人の会話をつなぐのが「手話と要約の通訳者」。

川俣さん:急いで電話したいときや確認したいとき、これまでは聴者に電話を代わってもらって電話するか、FAX番号がわかればそれで伝えるか、時には店へ足を運んでいました。電話リレーサービスは自分の好きな時や、相手の都合に合わせて電話をかけられるので便利になります。

武田大臣:喜んでいただけて良かった。どんどん使って世界を広げてください。

## 日本で始まった電話リレーサービス特集の構成は以下のとおり。

### ● 電話リレーサービス提供機関「電話リレーサービス」とは何か

文: 廣瀬正典 一般財団法人 日本財団電話リレーサービス 業務企画調整チーム ディレクター

### ● 全難聴「電話利用における音声認識ソフトの調査」による今後の技術展望

文: 小川光彦 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事

### ● 企業における電話リレーサービスの利用と課題

文: 高岡 正 社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会 東京手話通訳等派遣センター センター長